

みんなで遊ぶの楽し

米川で遊び場づくり開く

「ダンボールランドであそぼ！」(子どものあそび場を考える会@米川主催)は2月26日、米川公民館で開かれ、米川地域内外から約80人の親子連れが訪れ、ダンボール遊びを楽しみました。

ダンボールランドであそぼ!は、子どもたちが昔のように外で遊ぶことのきっかけづくりを目的に初めて開催。子どもたちは、それぞれ創意工夫を凝らして、家を作りおまごごと、車を作りレースごっこなどをし、楽しい時間を過ごしました。役員を務め、自身も親子で参加した後藤裕子さん=米川1区=は「時間を忘れて楽しんでくれて何より」とうれしそうでした。



親や友達などの手を借り、みんなで協力しての工作も、子どもたちにとっては新鮮な体験でした

火伏せ願い水かぶり

東和町米川で来訪神行事

国指定重要無形民俗文化財の「米川の水かぶり」は2月12日、東和町米川地内で開かれ、わら装束をまとい、神の使いに化身した男衆約30人が、家々に水を掛けて火伏せをしました。

米川の水かぶりは、800年以上続き、毎年2月の初午の日に催される行事。火の神の印である、かまどのすすを顔に塗った男衆は、肩と腰にしめ縄を着け、わら装束姿で秋葉山大権現に祈願し、来訪神になります。男衆が五日町地区を水を掛けながら歩くと、訪れた人たちは、火伏せのお守りにしようと先を争ってわらを引き抜いていました。



男衆が掛ける水を、頭からかぶりずぶぬれの子もたち。男衆に「顔にすすを付けて」とねだる姿が見られました

47年の歴史を閉じる

登米高で商業科閉科式典

登米高(西塚久良校長、生徒382人)の「商業科閉科式」は2月28日、同校体育館で開かれ、47年間の歴史に幕を閉じました。

閉科式は全校生徒が出席し、西塚校長は「商業科は、商業の知識と技術を習得し、現代社会に適応できる人間を育成していきました。支援いただいた多くの方々に感謝します」とあいさつ。商業科3年を代表して、伊藤昌輝さんが「商業のいろはを教えてくださいました先生たちに感謝しています。仲間と過ごした3年間は忘れません。商業科の生徒であったことを誇りに思っています」と感謝の気持ちを込めて別れを告げました。



閉科式に先立ち、同科3年生が閉科発表をしました。スライドを使い、商業科の歴史や3年間取り組んだ課題研究などを紹介

とっさの判断命救う

佐沼やまやで感謝状贈呈

「救急救護功労感謝状贈呈式」は2月15日、やまや佐沼店で開かれ、市消防本部から同店店長の富士原進也さんに感謝状が贈呈されました。

富士原さんは、昨年11月20日午後4時ごろ、同店内で人が倒れる音を聴き直行。市内在住の60代男性が心肺停止状態となっていたため、社員に119番通報と、近隣ホテルのAEDを取りに行くよう指示しました。救急車が到着するまで、居合わせた2人の女性客と心臓マッサージなど、適切な処置で倒れた男性の命を救いました。富士原さんは「職場で講習を受けたので対応できました。助かってよかった」と話していました。



鈴木軍雄消防長は「適切な判断と行動で命が救われました。協力いただいた皆さんのお陰です」と感謝していました

思いをマンガで表現

石ノ森記念館で自主企画展

第18回自主企画展「石ノ森ふるさとマンガ作品展」は2月11日から3月12日まで、石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれました。

市内幼稚園、保育所、小中学校、県内の高校から作品を募った自主企画展は、漫画を通じた青少年の健全育成が目的。三浦優子さん=石越町第四=は「孫が作品を出品しているので来ました。ロボコンのテストの点数が0点など、細かいところまでよく観察していますね。それぞれ創意工夫されており、見ていて飽きない。来年もまた見に来ます」と子どもたちの着眼点に感心していました。



石ノ森ヒーロー作品絵画、造形の部、マンガオリジナル作品イラストなど5部門、298点が展示されました

大きくなって戻って

豊里小生がサケ稚魚放流

豊里小・中学校(田辺昭浩校長、児童生徒数562人)の5年生48人を対象にした「サケ放流体験事業」(北上川漁業協同組合、同組合豊里支部主催)は2月21日、豊里水辺の公園で開かれ、児童たちは約10万匹のサケの稚魚を旧北上川に放流しました。

サケ放流体験事業は、稚魚の放流体験を通して、自然と命の大切を学んでもらうことが目的。児童たちは、バケツに入れた稚魚を無事に戻ってくるよう願いを込めて、雨どいから川へ放ちました。杉山嘉崇君は「命をつなげる大切さが分かりました。サケが無事に戻ってくる姿を見たい」と再会を期待しました。



稚魚に衝撃を与えないよう、静かに放流する児童たち。4、5年後、成長したサケの2~3%が戻ってくるといわれています